

国際交流センター

NEWSLETTER

Sep. 2020 Vol. 60

交換留学生(派遣)からのメッセージ

交換留学で海外の協定校へ留学していた学生が帰国し、感想を寄せてくれました。
みなさんも交換留学に挑戦してみませんか？



最初で最後の留学生活

生活環境学部食物栄養科3回生 松崎里帆子
派遣先：トリアー大学（ドイツ）

驚くべきことに帰国してから半年が過ぎてしまいました。皆さんも同じことを感じたかもしれませんが、帰国後の半年間、2020年の前期は新型コロナの影響で短いような長いような不思議な時間でした。留学先であるドイツでの感染拡大によって留学を半年早く切り上げ4月に帰国した私は、何度も「本当なら今頃ドイツで…」などと考えながら大人しくステイホームを満喫しました。それでも帰国するまでの数週間、コロナ禍の混乱を海外で過ごすという先にも後にもないような貴重な経験をする事ができたことは少し誇らしく思ったりもします。

独りで飛行機に乗り海外に行くことも、生活をする事も、長期の滞在をすることも何もかもが初めての経験でした。すべてが終わって感じた、やっておけば良かったこととやって良かったこと、この2つをご紹介したいと思います。

やっておけば良かったことは、「全力で取り組む」ことです。「初めてだから…」「まだ慣れていないから…」と、ドイツに飛び込んだ割には受け身なことを考えていたように思います。「最初の半年間はドイツに慣れていって…」なんて言っているうちに、コロナで帰国することになり、それは最後の半年間になっていました。自己管理は大切ですが、時間が限られている留学に限っては、「飛び込んでから慣れる」ことを楽しむ勇気を持つべきだったと感じています。これから留学される方は、少し無理して自分のキャパシティを広げる挑戦をしてみしてほしいなと思います。

やって良かったことは、「柔軟に動くこと」です。思うようにドイツ語が話せない環境で、思い立って行った休暇中のホームステイでは、日常のドイツ語だけでなく、食生活や教育、子供の遊びなど寮生活では経験できないドイツの文化に触れることができました。「今しかできないこと」は何かを考えながら行動したことは、留学生生活を充実させる一つの要素になったと思います。

長々と語りましたが一つ確実に言えることは、初めての経験は自分を成長させる、ということです。できないことに気づくのも、後悔するののも一つの成長です。交換留学の一番の目的は学問ですが、新しい環境の中でやり遂げたことは、(あるいはやり遂げられなかったとしても)自分の中の「当たり前」を考え直したり、長所や短所と向き合ったり、社会に出る前のかけがえのない経験になります。

私自身がこのような経験をする機会をいただけたこと、奈良女とトリアー大学の国際課の方々や家族にたくさんのサポートをしていただいたことに感謝しています。

センター及び国際課の活動

7/14	テレCotoQue講演会 海外ではたらくということ
7/15	テレCotoQue講演会 「にほんじん」ってだれのこと？
7/20	テレCotoQue 中国語オープントーク
7/29, 8/5	How to read Korean alphabets Hangul
8/31,	オンライン交流会
9/10, 19	日本で就職活動をした留学生の先輩たちと！
9/14	テレCotoQue おしえて！交換留学体験談
9/24	テレCotoQue チェミ#5

Inside This Issue



交換留学生(派遣)からの
メッセージ



交換留学生(受入れ)からの
メッセージ



“ならじょ”から就職
＜オンライン交流イベント＞



CotoQueイベント

留学体験記



生活環境学部食物栄養科3回生 井上 絵梨花
派遣先：ロシア人民友好大学（ロシア）

<なぜロシアなのか>

私は2019年9月から2020年1月までロシア人民友好大学に交換留学していた。私がロシアに留学しようと思った理由は、バレエなどの文化や、共産主義など日本とは違う歴史に興味を持ったことと、国連の五大公用語であり世界中でも使用者の多いロシア語を習得したいと思ったからだ。

<留学中困ったこと>

寮は二人部屋で、今まで共同生活の経験があまり無かった自分には、睡眠時間を合わせるなど精神的にきついことも多々あった。だが、他の多くの留学生も悩んでいるし、あまりにも同室人と合わない場合部屋を変えてもらえる。知り合いの日本人二人がスリにあうほど治安が悪いこと、お菓子の種類が少ないなど食に関する問題、大学の寮母さんでも何回も必要費を過剰に請求してくるなど、日本ではない問題が多々あり、途中帰国者は数えきれないほどいた。留学前までは、冬場にはマイナス20度にもなる寒さに耐えられるかが不安だったが、暖冬でマイナス9度までしか気温が下がらず、困ることはなかった。

<留学してよかったこと>

私の学科は食物栄養科で、ロシア語とはほど遠いことを大学で学んでいる。大学に入学してから本当にやりたいロシア語に出会い、進路にとっても悩んでいた。半年間そこから身を離してロシア語だけに打ち込むことで、自分の人生を客観視することができた。留学先で出会った同年代の学生が、寝る間もおしんで勉強しているのを見て自分の意識の低さを恥じたし、その友人の姉の時代には大学どころか高校が無かったような、さまざまな制約のある国の友人に「なぜ日本という恵まれた国に生まれて留学もできるような環境にいるのに、悩むことがあるのか分からない」と本気で不思議がられ、今まで環境のせいにして努力してこなかった自分の甘えに気付いた。

そのような内面だけでなく、日本政府が日露友好のために設立した日本センターでのボランティア活動や、日露友好のため国会内で開かれた会議を見学（写真は日本大使や同じ大学の先生、学生と国会内で撮影した）など、留学しないとできないことも多く体験した。

<ロシア留学のすすめ>

食物栄養科は第二外国語にロシア語を選べないため、私は独学でロシア語を勉強して留学したが、ロシア人民友好大学には留学生のさまざまなレベルに合わせたたくさんのクラスがあり、自分のレベルに合わせてロシア語を習得することができた。ロシア語のアルファベットも書けない留学生もいたので、ロシア語に自信がなくても興味があればぜひ留学して欲しい。ロシア人民友好大学には日本語学科があり、日本人の女性の先生が常勤されていて、留学中に何度も相談に乗っていただいた。また、なんとといってもロシアは物価が日本の半額と安く、寮費も無料で、ヨーロッパなどへ一か月短期留学するよりも安い値段で半年留学することができる。



国会の写真

念願の研究留学



博士後期課程3年生 高尾 有紀
派遣先：国立清華大学（台湾）

博士後期課程3年生の2019年9月から2020年6月まで、台湾の国立清華大学へ留学しました。学部生の頃から中国文学の研究を行っており、中華圏への研究留学はずっと目標にしていたものでした。

留学するまでは日本で研究活動を続けていて、研究対象である中国現代文学に関する資料が多数所蔵される中国や台湾の研究機関での研究活動は、年に数回に亘る短期間の訪問のみでした。留学した博士後期課程3年生は、博士論文作成に向けた集大成の期間となるため、専門的資料が常に閲覧可能な環境が必要であり、周囲に専門家が多数在籍した環境で学術的交流を深めることが望ましいと考えました。そのため、研究環境の向上、そして研究内容の深化を図ることを目的として、台湾に1年間留学して研究を遂行することを選択しました。

私が研究対象としている作家・沈從文は、国民党系の文学者との関わりが非常に強い作家です。また日中戦争時期に発表した作品も多数の国民党系雑誌に掲載されています。そのため、沈從文周辺の知識人に関する資料や、沈從文が発表した作品の初出資料を調査するには、台湾の研究機関での調査が非常に有用となりました。

台湾には、中央研究院や国家図書館、中国国民党党史館、国立台湾大学図書館など、専門的資料や貴重資料を豊富に所蔵する研究機関が多く存在します。これらは外部の研究者や大学生も常時利用可能でした。また、こうした研究機関には、台湾で発行された資料だけでなく、中国大陸で発行された資料も網羅的に所蔵していて、中国のデータベースにもアクセスが可能でした。さらに、中国大陸では閲覧不可能な論文等も入手できる環境がありました。

平日は清華大学で中国語上級の講義や、中国現代文学・台湾文学に関する講義を受け、週末には上記のような研究機関を訪れて、様々な資料を調査するという生活を送りました。同じ研究室の台湾人の友人に調査を手伝ってもらったり、参加した学会で知り合った台湾をはじめとした各国の大学院生と議論を交わしたりするなど、同年代の外国人研究者と交流ができたのも大変貴重な経験でした。こうした環境で研究活動を行う意義は極めて大きいものでした。

しかし、このように充実した留学生活が最後まで無事に続くことはありませんでした。2020年1月以降の新型コロナ

ウイルス感染拡大の影響により、台湾では防疫対策としてあらゆる研究会や国際学会等が中止されました。清華大学において研究指導を受けながら、留学の集大成として研究発表を行う準備をしていたもののそれも叶わず、ついには途中帰国を余儀なくされるに至りました。台湾での成果発表の機会を逸したことは大変遺憾でしたが、留学中に入手した資料や指導を受けた内容をもとに、現在、日本において博士論文完成に向けて研究活動を継続しています。

最後に、新型コロナウイルス感染拡大の混乱の中、無事留学を終えられるようご尽力いただいた国際課の方々、日本帰国後も留学期間満了までオンラインで指導を続けてくださった清華大学の先生方、全ての関係者の方々に心より御礼申し上げます。



台湾の日常的な食事

交換留学生(受入れ)からのメッセージ 海外の協定校から交換留学にきていた学生が奈良女子大学で過ごした感想を寄せてくれました。

段翠如【大連理工大学（中国）】

学部生の時は色々な原因で交換留学のチャンスを逃しましたが、今度はやっと留学ができてすごく嬉しかったです。前にも一度日本へ旅行したことがあるので、最初は違和感とか完全に感じなかったです。また、奈良女は留学生のためにチューター制度も設けられ、いろんな面で助けてくれるので、すぐ学校生活に慣れました。この一年間の感想といえば一番言いたいのは日本のゴミ分類です。

中国はゴミ分類にゆるいので、最初の頃はゴミ分類にすごく困っていました。ボトルはキャップとプラスチック部分をプラスチックごみに、本体を再生ゴミに分けます。牛乳などのパックは洗って線に沿って切った後に干して出します。最初の頃は、すごく厄介なことだと思いましたが、一回寮のゴミ収集の場所に行ったらゴミがそんなに細かくきれいに納まられることに驚きました。再生ゴミをリサイクルすることは環境にいいだけではなく、地球を守ることにもなります。これは世界中のどの国でも勉強すべきことだと思います。ゴミ分類からは日本人のルール守りと環境意識が高いということもわかります。本当に日本のゴミ分類に感服します。

留学は日本語を勉強することだけではなく、日本人の生活様式と習慣を身近に接することができます。これを通して、教科書、ネットあるいは他人の口から聞いたことではなく、日本が実際どんな国なのかを体感できました。コロナで確かに色んな面で不便でしたが、でもやはり日本へ来てよかったです。日本で出会った皆と知り合いになれてよかったです。最後に日本に留学している間にお世話になった担当の前田先生とほかの先生方に感謝の意を申し上げます。本当にお世話になりました。皆のおかげで日本で楽しい一年間を過ごしました！絶対にまた日本へ来ます。

蔣晴【大連理工大学（中国）】

「同じ地球、空はいつも繋がっているよ」というのは帰国した時、バイト先の店長から頂いた言葉です。別れは辛いけどこの言葉で大変感銘を受けました。この一年間の留学生活は私にとってどうしてもかけがえのない貴重な思い出になります。

来日したばかりの私はあんまり日本人としゃべることがないので、すごく緊張していました。でも、実際にしゃべたら、うまくいったのが大変うれしく思います。日本人友達にやさしくしてくれてありがとうという気持ちは胸でいっぱいになります。なぜなら、時々、日本語の単語がスムーズに思い出さなかったり、わからなかったりしていた時、日本人友達はずっと笑顔で待っているし、やっとしぐさとかでちゃんと伝わりました。やはり、日本に来て、日本人の友達と知り合ってよかったわと思います。

また、この一年間、国際交流センターの先生の方々からもいろいろお世話、お手伝いをいただきまして、誠にありがとうございました。先生たちのおかげで、昨年のお井町散歩、神戸への一泊旅行など、どっちでもめちゃくちゃ楽しかったです。先生方のお心遣い誠にありがとうございました。

今年はコロナの原因で、ずっと部屋にこもっているように過ごしていました。今振り返れば、残念なことも少ないのでちょっと悔しいかなと思っていたけど、コロナが収まったら、絶対もう一回日本に行こうと思ひ、やりたいことを終わらせるという覚悟をできました。先生たちもコロナの時期、お体、元気でね。この一年間、まことにありがとうございました。



“ならじよ”から就職 -オンライン交流イベント-

奈良女子大学出身の元留学生の方をゲストスピーカーとして招き、日本での就職活動や勤務経験についての話を聴くオンライン交流会を計3回行いました。1回目は留学生限定のイベントでしたが、2回目と3回目はすべての学生を対象に参加者を募集しました。のべ21名の学生が参加し、たくさんの感想を寄せてくれました。その一部を紹介します。



今日お二人の先輩のお話を伺ってとても充実した時間を過ごしたと思います。特に、自分に対して有益な情報ももらいました。例えば、程さんから大学先生になる条件や、なった後の様子を詳細まで知られることを思わなくて今後の発展に非常に役立つと考えています。そして、Haさんからも企業文化について大事な情報を提供してくれてありがたいです。参加してよかったです。

いろいろ就職についての知識を勉強しました。ありがとうございました。中国で日本語教員就職している程さんから中国での就職現状を聞かせていただきました。日本と違って、中国は学歴の時代です。就職の時、学歴が一番重視されています。私はいま就職活動を進んでいます。日本では、学歴より能力を重視しているということに気がなっています。自己分析の方法、就職時注意すべきなこと等を勉強させていただいて楽しかったです。ありがとうございました。

卒業生の留学生の方々がどのような話をされるのだろうかという興味と海外の地でどのようにお仕事を探したのだろうかという疑問があり、参加をしました。就職活動における注意点やコツを実体験と共にお話しして下さったので、具体的にイメージをすることができました。また、お話をしてくださったお二方の学びやお仕事に対する積極的な姿勢から、より大学生活を充実したものにしようという目標ができました。

CotoQueイベント

7月から9月にもたくさんのCotoQueイベントを行いました。イベント企画者や学生ゲストスピーカーを含め、のべ48名の学生が参加しました。参加した学生からたくさんの感想が寄せられたので、その一部を紹介します。

この企画に参加することができて本当に良かったです。交換留学に行く準備は始めていますが、具体的にどう行動したらいいか分かっていませんでした。しかし、今回の企画でたくさん有益な情報を得られることができましたし、気楽になった気もします。ありがとうございました！

元々興味があった韓国語ですが、なかなか手を付ける機会を見失っていました。そこで、英語で勉強するというこのイベントを見つけ、同時に英語の勉強もできるという点が面白いと思い参加しました。私は韓国アイドルが好きで、それが韓国に興味を持ったきっかけです。今回の授業内容を生かしてハングルの勉強をしたら、話せるようになるには単語の意味も覚えなくてはいけないので時間がかかるけど、アイドルの歌を歌うことはできるようになると気づきワクワクしています。自分でハングルを読んで歌が歌えるように練習したいです。



中国語オープントーク、とても楽しかったです！私が話した中国語は你好、谢谢、再見だけでしたが、先生役の留学生のお二人に「私はお昼寝をしました」は中国語ではなんとと言えば良いのかを教えてくださいました。

奈良女子大学 国際交流センター

NEWSLETTER Vol.60 2020年9月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL: 0742-20-3736

Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp